



<研修レポート>

平成20年度（第24回）まちづくり拝見研修会に参加して ～「城下町の歴史を活かした産学官連携による彦根のまちづくり」～

茨城県東茨城郡城里町役場 都市建設課 主幹 きょうのともりの 興野友宣

【はじめに】

今回私は城里町職員として初めて、平成20年11月28日(金)に、滋賀県彦根市の滋賀大学に於いて、平成20年度第24回街づくり拝見研修会～「城下町の歴史を活かした産学官連携による彦根のまちづくり」～に参加させていただきました。

今回の研修は、大学教授によるご講演、現地視察、事例紹介等により構成され、全国から60名以上の都市計画関係の職員が集まり視察研修をして参りました。

どの講演・視察もとても素晴らしいものでした。その中でも私が特筆しておきたい研修は下記のとおりであり、今回の視察研修の報告としたいと思います。

【講演】

「産学官の連携によるまちづくり」 講師：滋賀県立大学 環境科学部 柴田いずみ 教授

講演の概要

滋賀県の面積は全国で10番目に狭く、内陸県としては埼玉県に次いで狭い。しかもその狭い面積の半分以上が山地と琵琶湖で占められており、可住地面積では大阪府よりも狭くなっている。

更に今回の研修地である彦根市は、昭和12年に市制を施行し、琵琶湖東北部の中核都市として発展してきた市である。

琵琶湖と鈴鹿山系に囲まれた豊かな自然に恵まれた彦根市は、江戸時代に彦根藩35万石の城下町として本格的な歩みを始め、現在に至るまで歴史的、文化的な風情を色濃くとどめているとともに、中世から近世にかけての貴重な歴史遺産が今なお、数多く存在している。

中でもやはり特筆すべき事項は、滋賀県のシンボリックな「彦根城」で国宝に指定されている。

今回、産学官との連携によるまちづくりの目的とは、地域を特色づける産業の育成・発展を目指して、独創的な分野・技術に特化し、地域における産（民間企業）・学（大学等）・官（公的機関）の連携を促進し、大学等のシーズ（知恵）と民間企業のニーズを上手にマッチングさせることにより、新しい技術や文化を生み出して、新規事業を創設していこうというものです。



彦根城

ひこにゃんとやちにゃん





連携したまちづくりの例

彦根市は人口約11万人の都市ですが、3つも4年制大学があります。

その学生力には素晴らしいものがあり、1998年にはACT(ACTION CONNECT TOWN 活動はまちにつながる)を県立大学の学生主体で立ち上げ、そして運営しています。

中心市街地に7年も閉まっていた空きビルに「シャッターを開けましょう！」と学生たちが集まり、活動を始めたそうです。

盛り上がりのある活動は、人が集まり、活性化を促し、まちの発展につながって行ったとのことで、彦根城を中心とした活動は更に大きくなり、現在では学生と民間が共同しながら、彦根城内堀に「屋形船 ゆらつと遊覧 彦根城お堀めぐり」や観光案内もしてくれる「ペロタクシー」等を運営しています。



夢京橋キャッスルロード

↓花しょうぶ通り商店街



他の視察研修

今回、上記の講演会のほかに、下記の講演及び視察研修等をしてきました。

・講演として

滋賀大学 経済学部 山崎一眞 教授による講演
「城下町の歴史を活かしたまちづくり」

・現地視察として

夢京橋キャッスルロード
(シンボルロード整備事業・まちなみ修景等)

四番町スクエア
(街なか都市再生土地区画整理事業)

花しょうぶ通り商店街
(LLP ひこね街の駅)

未来ロゴス21ひこね
(彦根駅東地区土地区画整理事業)

以上を視察してまいりました。

視察研修を終えて

今回、上記報告に記載の視察研修をしてきましたが、率直な感想といたしましては、私の町においても中心市街地の産業が寂れているように感じるので、彦根市のように若い力と一体になり、まちが活性化するような素晴らしい活動や事業を行えたら、今後の発展につながっていくのではないかなと思いました。

このような有意義な視察研修をさせていただき、機会を与えてくださった関係各位の皆様方や上司・同僚の皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りしまして、感謝を申し上げます。

また、機会がございましたら、是非参加させていただけたらなと思います。

以上、簡単ではございますが、今回の「まちづくり拝見研修会」の報告といたします。